

# ハーコメント

ヘンナ夢はこわい

魂を求める心理学 ユングと夢の中

MADSEN KIKO

マドセン紀子

青山ライフ出版

ローソクの灯火ともしびはいい。なぜに良かった？ 炎が揺れて辺りがほんのりあたたかくなるのが良い。ポウーっと見つめてみると気持ちか穏やかになるのが良い。いつまでも、見つめていられる。人もローソクの炎（灯火）の様な人がいい。気負う事なくまっすぐで、そのくせ周りがあたたかい。ポウーっと、その人（男ひと）の近くでたたずんでいた。なぜ、私はこのノンフィクションまがいのエッセイの冒頭にこんな事を書いているのだろうか？ とにかく、気持ちか萎えてしまうせいかな？ 年で体力が極端に落ちたせいかな？ いずれにせよ、極限の闇の様な世界に近づいた様な気がする。なぜって、最近、身のまわりで異次元の非常に奇妙な事が、時計の反対回りで起こっている。

小さな頃から、私自身が気がつかなかっただけで、ワンサカ不思議な体験をしてきた。気力も体力も快復する時間があった。だから、これまで生き延びて来られた。しかし、この一年は違う。コロナのせいで（数年にわたる）世界中の人々の気が乱れ、それが、地球全体の生命体（すべての生き物）の気を変え、うまく、

もとの様（以前）に循環していないかも知れない。ただ、単にコロナのせいだけではないかも知れない。冒頭に話したローソクのような人（男）だって、このローソクのように、風に吹かれれば、消えまいとして炎を2倍にして高く熱く燃える。いったい何が言いたいのかって？ つまり、ローソクでさえ、自分を守る術を知っていて、炎を消そうとする微風にでさえ全力で（炎を高く2倍にして）身を守ろうと高く熱く燃える。じゃあ、全人類は？ と聞かれても困る。そうでしょう？ それぞれの国々の何兆、何億という人格や、それぞれのバックグラウンドをいろいろ説明できないし、又、しようとも思いません。しかし、個人対個人となれば別です。なぜなら、その与えられた個々の輪の中で、社会に順応して生きて行かなければならないからです。その社会の輪の中に溶け込んで行けない人々は大変。とても苦しい現実が待ちかまえている。そして、順応しようと、しまいと人は順応という言葉に従って、生きていこうとする。それは人として生まれた業なのかも知れない。（こんな事を「大好きなプログレロック」を聞きながら考えている。）どうしたんだろう？ 前に書いた様に、本当に私は限界、ヘタすればヘコ

タして、あの世やらに行くかも知れない。突然死？ 初めて突然死なんて言葉が頭に浮かんできた。変だ。いったい、私はどうしてしまったのだろうか？ 心理学を数年学んだが、別に自分が精神的、肉体的にアブナイと思つて学んだわけではない。先輩に勧められた事と自分が心理学への興味がわいたからだ。しかし、こんなに精神が疲れていると目標の85才まで生きられるかどうか怪しい。どうして85才つて？ つまり母が74才、父が84才で亡くなつて、父の84才を一年でも越してして長生きしてみようという単純な発想からだ。又、最近、特にアブナク、怪しい夢を見る。自分の悲鳴で起きてしまう事すらある。その幾つかを皆様に聞いていただこう。(聞きたくない人も、ひよつとしたら、遠い将来、いや、近い未来に役立つかもしれないよ。)